

看護大通信

61



新潟県立看護大学

助産学講師 高島葉子

今回は助産師がどのような場で活動しているかについて紹介させていただきます。助産師の多くは、病院や診療所（クリニック、医院）で働いていますが、地域で開業している助産師もいます。

開業してつづいてる助産師もいます。その

開業してつづいてる助産師もいます

開業の仕方は大きくわけて2つあり、1つ目は助産所（院）という施設を持ち、お産を扱いその後の母乳育児支援や母子のケアを継続的に（有床助産所）、2つ目は、施設を持たず、自宅へ訪問しお産や母子の支援を行い

ます（無床助産所）。新潟県ではほとんどの開業助産師はお産を扱わず、家庭に訪問して沐浴や母乳育児に関する支援を行っています。お産を扱っている有床助産所も3施設（新潟市2、上越市1）あります。

らぎを感じることはありません。「自分と家族でやれると思っていたけれど、家に帰ってきたら、傷も痛く、足もばんばんにむくんで自分の体思うようにならない、おっぱいをあげても子どもは泣き続けているし、どうしたらよいかわからない」とせば詰まった様子で連絡がくることもあります。

開業助産師の母子支援の様子をご紹介します。お母様たちは医療機関で出産を終え、看護職員から手厚く育児に関する指導やアドバイスを受けて退院しますが、初めての育児にお母様もご家族も多くのとまどいや心の揺

そんな時、依頼があれば夜でも土日でも訪問し、日常生活の中でお母様やご家族に添ったケアや助言をします。電話の応対だけで落ち着き、赤ちゃんに向き合えることも多いのですが、直接顔を合わせ、お話を傾聴



し、必要なことを具体的に助言することで、早期に問題が解決します。初めてのお子様から次の、そしてその次のお子様の時もご依頼いただくことも多く（写真は開業助産師をしていた時、沐浴させていただいた3人のお子さまたち）、また、お産後すぐだけではなく、育児等に悩んだり、おっぱいのトラブルがあった時などもケアするため、家族のようにけれども専門職として寄り添い、場合によっては2世代にわたつての長いおつきあひになることもあります。